

川崎市洪水ハザードマップ 川崎区版



「意識と準備が命を守る！」

洪水ハザードマップとは、河川が大雨によって氾濫した場合に、洪水浸水想定区域や避難場所を示したもので



我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家防災メモを完成させましょう！

① 自宅の灾害リスク

● 地図を確認して、該当するところに○印を記入しましょう

	浸水無し	0.5m未満	0.5~3.0m未満	3.0~5.0m未満	5.0~10.0m未満	10.0~20.0m未満
洪水(多摩川水系)						
洪水(鶴見川水系)						
土砂災害警戒区域						

② 避難方法

● 「状況に応じた避難行動」を確認し、避難方法を確認しましょう

- 洪水からの避難
- 室内待機 □ 垂直避難 □ 立ち退き避難

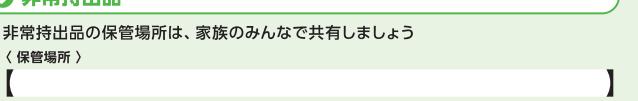
③ 避難場所と避難経路

● 避難方法が決まつたら、避難場所と避難経路を確認しましょう



④ 非常持出品

● 非常持出品の保管場所は、家族のみんなで共有しましょう



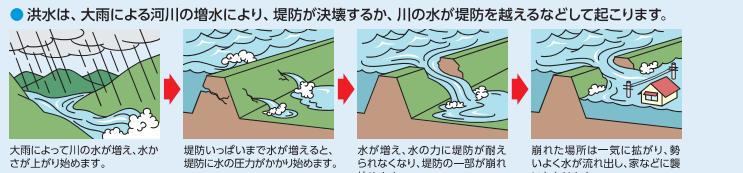
⑤ みんなの約束

● 家族やご近所での約束事を記入しましょう



洪水から身をまもる

① 洪水発生のメカニズム



② 洪水浸水想定区域の考え方

- すべての被堤点（堤防が決壊すると想定したところ）について、どう氾濫し浸水するかを予想します。
- すべての予想結果を重ね合わせ、最大の区域と深さを表示しています。
- 実際は、それらのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がり、除外に深くなります。

③ 都市型水害について知る

- 大規模な洪水以外にも、都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透していくため、川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。
 - 〈低地の冠水〉
 - ・低地や道路のアンダーパス^{※1}では冠水が起こり、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。
 - 〈地下への浸水〉
 - ・地下が浸水すると、
 - ①水圧でドアが閉かない
 - ②一気に水が流れ込む
 - ③外の様子が分からず逃げるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。
 - 〈中小河川の増水氾濫〉
 - ・都市の河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。誤って転落しないよう、大雨のときには近づかないでください。
 - 〈過去の浸水〉
 - ・過去に浸水があった所は、大雨のとき、またたび浸水するおそれがあります。事前に確認し、避難する際はこのような所は避けましょう。
 - ・過去の浸水（浸水実績）については、川崎市防災ポータルサイトから確認できます。

④ 洪水からの避難

- 洪水の危険が迫った際には、川崎市から対象の地域に避難を呼びかけます。
- お住まいの環境によって、適切な避難行動に違いがありますので、右ページの判断フローを参考に、ご自身の避難行動や避難先をあらかじめ検討しておきましょう。

① 避難に関する情報

避難準備・高齢者等避難開始

お年寄りや身体の不自由な方など、避難に時間が必要な方は避難を開始してください。その他の方は避難の準備を整えてください。

避難勧告

災害発生が想される地域の方に避難を勧めるものです。

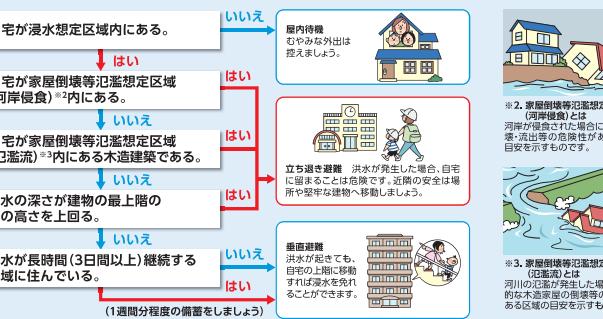
避難指示（緊急）

指示を受けた方は、ただちに避難してください。

② 水位に関する情報

水位	川崎市の対応
氾濫の発生	避難指示（緊急）を発令します。
氾濫危険水位	避難勧告を発令します。
避難判断水位	避難準備・高齢者等避難開始を発令します。
氾濫注意水位	水位情報を注視し、災害に備えます。
水防待機水位	水位情報を注視し、災害に備えます。

③ 状況に応じた避難行動



④ 雨屋外に避難するときの注意点

- ・動きやすいや部屋を心がけ、靴はヒモで締められる運動靴を履くようにする。
※長靴は足を取られる危険です。
- ・非常持出品（飲料水、食料、貴重品など）は、リュックサックなどに入れ、両手が使えるようにする。
- ・夜間や停電などで周囲が暗い場合には懐中電灯を用意する。
- ・やむを得ず浸水している場所を移動する場合に備え、杖などを用意する
- ※浸水している場合は、蓋の開いたマンホールや水路、側溝などの転落の恐れ等があり、足元の安全確保が必要です。

⑤ 助け合い（共助）

- ・近くにお住まいの高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、外国人、または旅行者などが一人で避難することが難しい方がいます。日ごろからご近所でコミュニケーションを取り、避難の際は、近隣の方々と声をかけあい協力しながら避難しましょう。

⑥ 雨の降り方と災害発生との関係

※地域特性により異なる場合があります。

時間雨量	状況	災害発生時のリスク
10~20ミリ	○ザーザーと降る。	○この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20~30ミリ	○どしゃ降り。 ○車に乗りているときは、ワイパーを速くしても前方が見づらい。	○側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30~50ミリ	○バッソをひっくり返したように降る。 ○車での高速走行時には、ハイドロブレーニング現象が生じブレーキが効かなくなる。	○山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50~80ミリ	○滝のようにゴーゴーと降り続く。 ○これまで、車の運転は危険。	○都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。 ○マンションから水が噴出する。 ○土石流が起ります。
80ミリ以上	○島苦くなるような圧迫感がある。 ○恐怖を感じる。	○雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

⑦ 日頃の備え

家庭備蓄の充実

- 災害時には、ライフライン機能の低下など都市機能の低下が考えられます。このため、各家庭で最低3日間、出来れば7日間、自宅で過ごせる用意をしましょう。
- （飲料水）・飲料水は1人1日3リットル必要です。
・ペットボトルなどで、家族全員の分、用意しておきましょう。
- （食 料）・お米や乾糧、缶詰など、日持ちのするものをなるべく多く用意しておきましょう。
・普段の生活の中で十分に買い置きし、賞味期限が来る前に消費しながら定期的に買い置きすることで、無理なく備蓄ができます。（=ローリングストップ）
- （その他）・カセットコンロ（パンペも忘れずに）、簡易トイレ（汚物処理袋）などを用意しておきましょう。

⑧ 非常時持出品チェックリスト

水・食料	<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 携行食・非常食 <input type="checkbox"/> ビスケット・缶詰など
医療・衛生	<input type="checkbox"/> 薬を服用している <input type="checkbox"/> 救急衣料品 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 歯ブラシ・口腔ケア用品 <input type="checkbox"/> 防塵マスク
貴重品	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> インク <input type="checkbox"/> 健康保険証・預金通帳 <input type="checkbox"/> コピー可
安全対策	<input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ズキン <input type="checkbox"/> 厚底の靴 <input type="checkbox"/> 車掌
道具類	<input type="checkbox"/> 携帯電話・充電器 <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> 時計 <input type="checkbox"/> 携帯カイロ <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> ライター・マッチ <input type="checkbox"/> 両切り <input type="checkbox"/> ナイフ <input type="checkbox"/> 入れ歯・眼鏡など
衣類	<input type="checkbox"/> 上着（防寒着） <input type="checkbox"/> 下着・靴下 <input type="checkbox"/> 携帯レインコート
生活用品	<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ・ティッシュ <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> ゴミ袋・ボリ袋

ハザードマップの使い方

① 自宅を見つけましょう

自宅に洪水が来るごとに、がけ崩れが起こる可能性を確認しましょう。



② 避難する場所を確認しましょう

洪水や土砂災害からの避難方法を確認しましょう。立ち退き避難が必要な場合は、適切な避難先を確認し、大きく印をつけるなどして災害時に備えましょう。



③ 安全な避難経路を決めましょう

大雨の時に危険となる水路や橋、アンダーパス、浸水の危険がある箇所や土砂災害警戒区域などの場所を確認し、避難経路を見直しましょう。



④ 実際に避難経路を歩いてみましょう

家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。



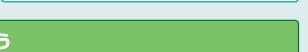
⑤ 家族で災害時の対応を話し合いましょう

大雨の際の行動について、家族と話し合い、災害時の約束事を決めましょう。



⑥ 学校やご近所で考えましょう

学校やご近所で、災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に措置が必要と思われる方にいても、みんなでできることがあります。防災情報の際に協力しましょう。



⑦ 我が家の防災メモを完成させましょう

風水害時に役立つ情報

① 川崎市防災情報ポータルサイト（川崎市ホームページから）

- 市内の災害に関する緊急情報、被害情報、避難情報などを掲載します。
- 日頃からの備えや、川崎市の防災計画なども紹介しています。
- 外出時の防災対策についてまとめた携帯版の「備える。かわさき」ポータブルを紹介しています。
- 過去10年間の浸水実績を公開しています。

② カワサキ防災アプリ

- 川崎市の公式アプリのサービス「カワサキ防災アプリ」では、災害時の緊急情報や避難情報などをプッシュ通知で受けられるほか、最寄りの避難所や各種ハザードマップを見るることができます。

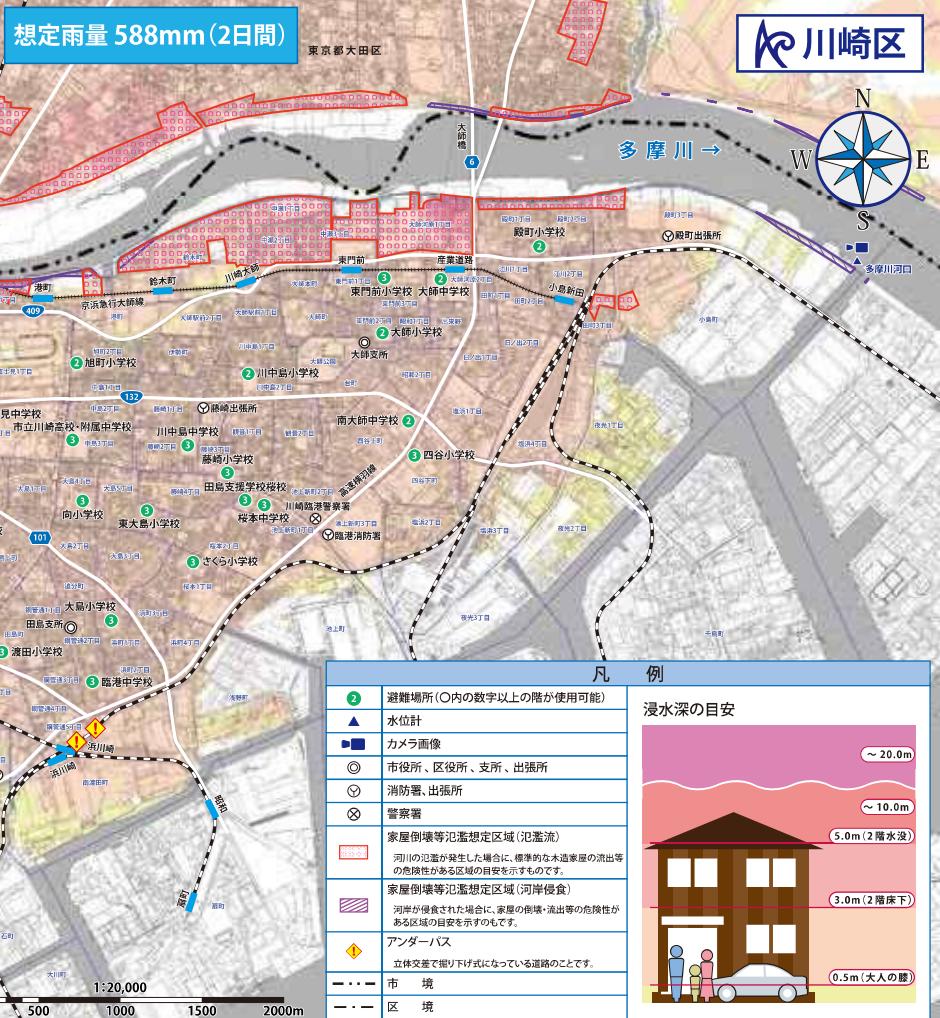


③ メールニュースかわさき

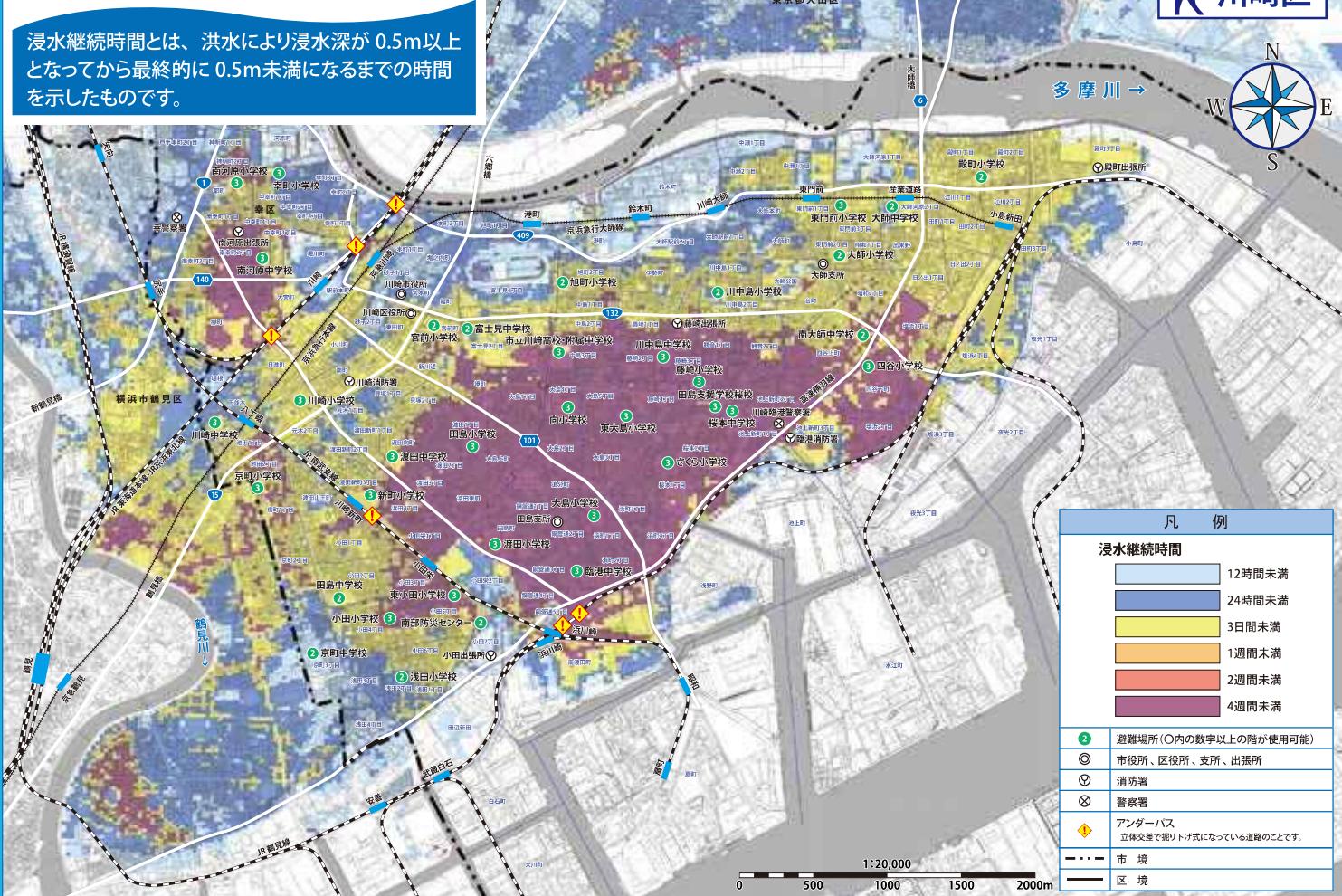
- 川崎市から、市内の防災、気象、災害等の（パソコンから）情報をメールでお知らせします。
- 配信を希望する方は右記のメールアドレス宛に空メールを送信してください。

④ 防災行政無線・防災テレフォンサービス

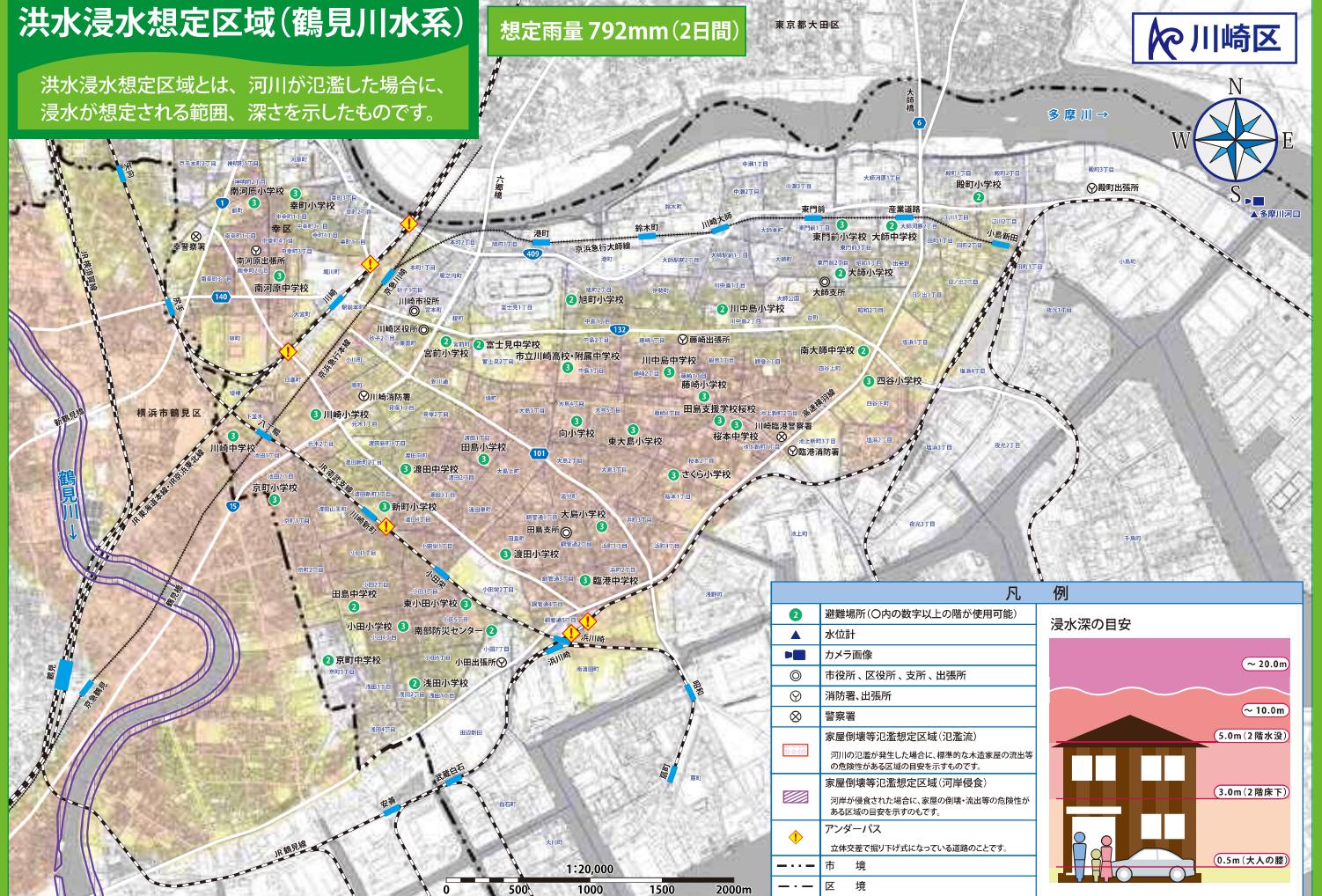
洪水浸水想定区域(多摩川水系)



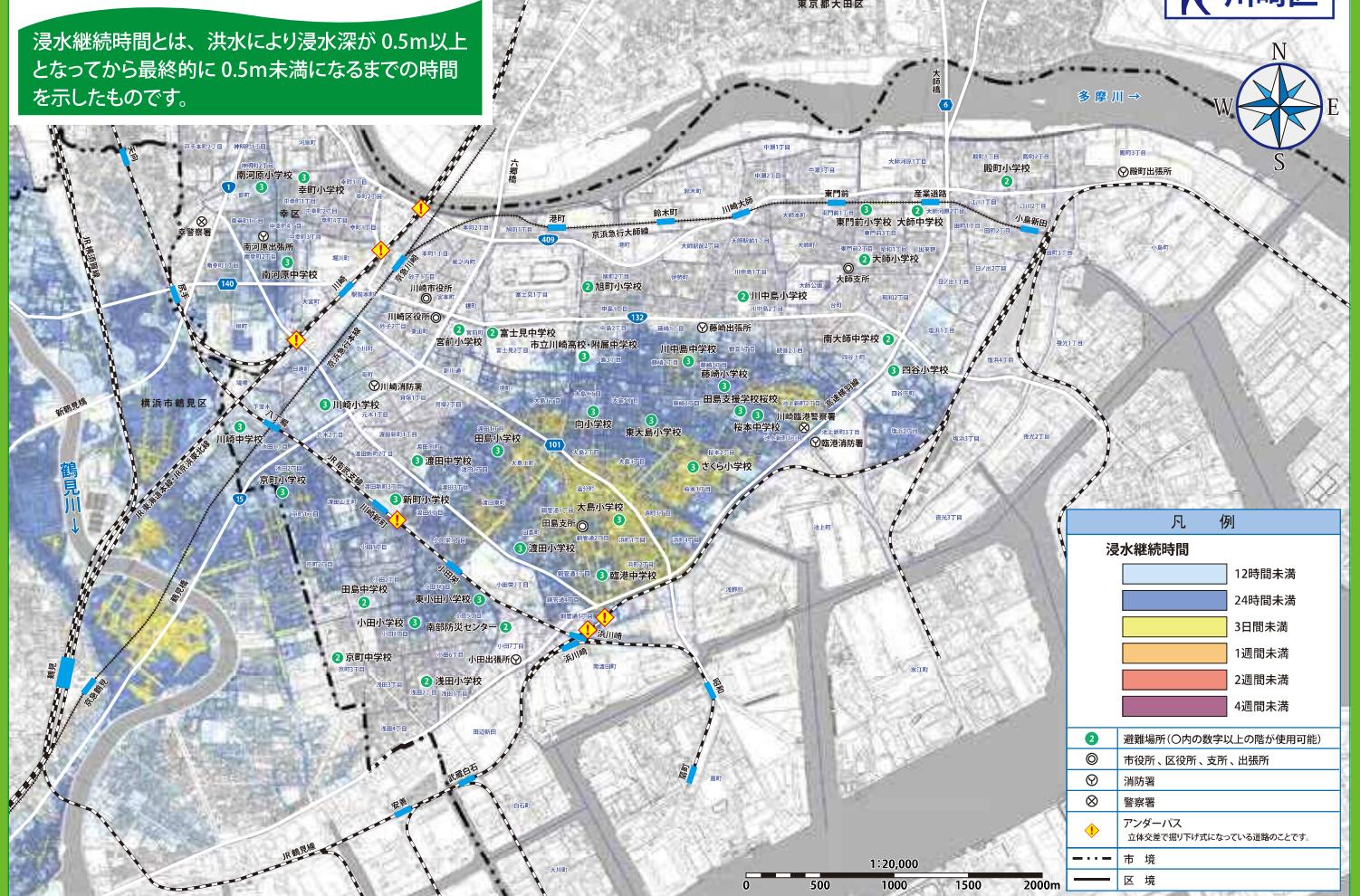
浸水継続時間(多摩川水系)



洪水浸水想定区域(鶴見川水系)



浸水継続時間(鶴見川水系)



●この地図の作成に当たっては、国土地理院の座標を基準として、消防庁の基盤地図情報を使用した。(承認番号:平29換第112号) ●川崎市の津波を避けて市内航行する都市計画航路を抜粋したものです。承認番号:平29換第100号)